寄せ太鼓

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館
運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号（〒807-1261）
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

本年は宿場まつりも中止
コロナ憎しの明け暮れ

毎年十一月の第一日曜日に開催する「筑前木屋瀬宿場まつり」について、本年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防と拡大防止の観点から中止することになりました。

この度の中止は自治区会を中心とする木屋瀬の八団体で構成する木屋瀬宿記念館運営協議会（宿場まつり実行委員会立ち上げ母体）の理事会において協議決定されました。

宿場まつりは本年二十八回目を数え、住民手造りの企画で客足も増え、近年裾野を広げ一定の地歩を築いてきました。

木屋瀬は宿場町として栄え、歴史と伝統のあるいろいろな祭りがあります。

本年は新年の歳旦祭こそ実施されましたが、四月の春祭り、五月の学神祭、七月の祇園祭、九月の庚申祭、十月の秋祭り、そしてこの宿場まつりとことごとく中止を余儀なくされています。

祭り好きの木屋瀬っ子にとってコロナ憎しの感は否めない所でしょう。

コロナとの戦いは当面まだ続きそうですが、自分を守り、他人も守る精神で感染の防止に努めましょう。

そして来年の再開を期しましょう。

長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会
広報部会長 徳永興紀

●第78回企画展「出島の三学者が見た北九州・木屋瀬」

会　期：10月24日(土)～12月20日(日)
会　場：長崎街道木屋瀬宿記念館　みちの郷土史料館

長崎街道木屋瀬宿記念館開館２０周年を記念して、“出島の三学者”と呼ばれる歴代オランダ商館医師の３人であるケンペル、ツュンベリー、シーボルトにスポットを当てた企画展を開催いたします。 東インド会社から派遣されてきたこの３人の医師達は、オランダ商館の中で診察だけをしていたのではありません。彼らの使命は多岐に亘っており、医師業のかたわら、当時ヨーロッパとの交流がほぼなかった極東の地「日本」の詳しく明かされていなかった国土の情報や国民性、その土地ごとの動植物や風俗、政治や経済に至るまでの調査も行っていました。この企画展は、当時の三学者が残した旅行記をもとに、彼らから見た北九州・木屋瀬の人々の暮らしの様子や、発展した国から来た外国人が実際に来日してどんなことを感じていたかなどを、絵図や解説をパネル化した展示を行います。

●こやのせ座落語会　今年は11月8日(日)開催です

日　時：１１月８日(日)　開演１４時　開場１３時３０分
場　所：長崎街道木屋瀬宿記念館　こやのせ座
入場料：大人　前売５００円（当日８００円）
　　中学生以下　前売２００円（当日３００円）※未就学児は無料
定　員：先着２００名（全席自由）※電話での予約制
申込先：長崎街道木屋瀬宿記念館　TEL 093-619-1149

皆様お馴染みの、林家きく麿師匠の独演会です。きく麿師匠といえば、古典落語だけでなく新作落語にも取り組んでいるユニークな感性を持つ落語家として人気を博しています。また、かつてＮＨＫ新人演芸大賞の本選出場という実力者です。

芸術の秋！こやのせ座でお会いしましょう。

筑前木屋瀬

今昔歳時記

第９回

紅屋泰助氏（故 柴田泰助氏）の「筑前木屋瀬今昔歳時記」（「ひろば北九州」連載）の第９回目です。

今回は、８月の行事・風物について、後編をご紹介させて戴きます。

盆狐つきし踊りのかろさかな

これは〔木屋瀬盆踊〕の踊り方の奥義を詠んだ一句と私は解釈して居ります。木屋瀬いろは歌留多の作者の岩井屋不彫さんの兄、金樽さんの句でございます。因みに、此の〔木屋瀬盆踊〕は昭和三十七年、福岡県の無形民俗文化財に指定を受ける際通称〔宿場踊〕と命名され、以来、広く知られるようになりました。しかし、原点は盆灯籠会が今も伝承する盂蘭盆供養の盆踊でございます。

それでは最後に、不彫さんが書かれた〔宿場踊〕の由来をご紹介します。

何でも古い話で、徳川は八代将軍吉宗公の享保年間に、木屋ン瀬宿の洒落た人たちが、お伊勢まいりのお土産に伊勢音頭を覚えチ帰っチ、それを貴方、宿中に流行らかしましたそうでございます。

その頃の木屋ン瀬は、筑前六宿と筑前内宿の追分宿で、黒田の殿様をはじめ、有馬・立花、鍋島・細川・嶋津と、九州諸国のお大名方や、長崎奉行、オランダ甲比丹も、そうようお通りになったりお泊りになったりしよりましたそうで、その度ンびたンび、近隣近在から、そうそう助郷でございます。その助郷役でお百姓方が大層呼び出されチ、大名行列の奴になりよったそうでございます。

木屋瀬中が奴の宿になっチ、槍持ち、荷物持ちの型の稽古やら、その掛け声やらで大層賑ひよりましたそうでございます。

この奴の仕草や掛け声で、今しがた申しました伊勢音頭に合わせチ踊りましたところが、うまい工合に調子が合う。至極面白りい、こりゃ面白りいと、踊り出しましたとが、そもそも宿場踊りのはじまりちゅうことでございます。

それから。貴方、遠賀川の川ぶちの宿驛でございますもんじゃき、雨が降りや「川止め」で、黒崎さいも飯塚さいも、赤間さいも、どっちにも行かれんごとなったそうでございます。雨に降り込められた泊り客にゃ、学者も居らっしゃりゃ俳諧師も旅芸人も上方の役者衆も居りましつろうし、そげな時のつれづれに、唄の文句も踊りの振りも、新きに考え出されたり念を入れチもろうたりしたかも知れまっせん。

そげなふうで、何十年も、何百年もかかっチ、今のごとなったとでございましょう。

つづく（記念館）

いろはかるたのご紹介

を　踊りは七手　思案橋

木屋瀬盆踊には並手（思案橋）・みやこ（じろさ）・本手の三種がありますが、並手の男踊りには七手という変わり手がございます。七手を入れる時は、鼻取り（はなと）という音頭取り役が「ヤ・ソコラデセイ」と掛け声をかけ、踊り手は「ソレ・エーソッ」と応えて踊ります。大きゅう踊るとが男踊りのコツで、男が艶つけち踊ったら笑わるとです。

新春イベントのお知らせ

※詳細は後日お知らせします。
※コロナ禍の状況が厳しい場合は、中止もあり得ます。

木屋瀬いろは歌留多大会

木屋瀬の文化と伝統が織り込まれた、木屋瀬ならではの歌留多大会です。新年恒例の行事ですので、子供も大人も奮ってご参加ください。

日時　1月10日（日）10時から
場所　長崎街道木屋瀬宿記念館こやのせ座

こやのせ座 New Year コンサート2021

響ホール合奏団の団員の皆さんに出演をお願いして開催する恒例のコンサートです。毎回楽しみにしておられる方が多く、今回はどのような楽曲が披露されるかご期待ください。

日時　1月23日（土）14時から
場所　長崎街道木屋瀬宿記念館こやのせ座

福岡県河川協会から運営協議会へ感謝状授与

当運営協議会が遠賀川の清掃活動など10年以上の長きにわたって河川愛護活動に取り組んできたことが高く評価され、本年7月に福岡県河川協会から感謝状が授与されました。

今後も、ふるさとの川〝遠賀川〟の愛護活動にご協力をお願いいたします。

シリーズ 第50回 筑前木屋瀬宿 神仏めぐり 須賀神社 祭り歳時記（その5）

平成十六年七月から「木屋瀬の神仏めぐり」の掲載を始め、今回で五十回を迎えます。当初、四～五回位を考えていましたが、十七年間の永きに亘り御講読頂き有難うございました。

今回五十回という切りの良い回数になりましたので連載を今回で終了いたします。

さて、前回の号で、六月の夏越し、七月の祇園祭りを紹介しました。今回は、「庚申祭（こうしん）」から始めます。木屋瀬町では、「庚申祭」が二か所で行われます。感田町の興玉神社（おきたまじんじゃ）で五月と八月の二回、本町方面では会場を六町持ち回りして、毎年九月一日に開催されています。「庚申」とは、十干十二支（じっかんじゅうにし）の年月日の読み方の一つで六十日に一回巡ってきます。その庚申の日に講中の人々が集まり夜っぴいて、防災と豊作豊漁を祈ったのが始まりです。元来は、道教の教えで人間の腹中には、サンシという虫がいて、人間のわずかな過失も見逃さず庚申の夜に人間の体から抜け出し天帝に告げると人間の命が奪われるとの信仰から、夜を寝ないで酒宴を開いてサンシの天帝に告げるのを阻止する祭りです。真意は夏の疲れの癒しと、懇親、防災を祈った祭りです。

十月には、須賀神社では農作物の収穫を祈っての「秋まつり」が行われます。元来「祭り」とは、神と人々が酒食をともにしながら、神と人との一体感を確認する機会が祭りです。だから、「お神酒あがらぬ神はなし」の言葉があるのです。秋祭りは、収穫祭とも言われ、秋に採られた作物をお供えし神へ感謝の気持ちを表すお祭りです。

十二月に入りますと、恵比須祭りが行われます。恵比須様のお姿は鯛と釣竿を持ったお姿でその姿から豊漁の神として、又「釣りして網せず」の言葉があるように、暴利を貪らない心を表しているとして、商売繁盛の神様として商人の信仰を集めました。

それから、木屋瀬では、全国的にも珍しい「子供恵比須」が行われます。この行事は古くから木屋瀬に伝わる伝承行事で男の子が十一歳になりますと、子供組の頭になりますので「子供頭」として大人の仲間入りの儀式です。昔は頭行事が済みますと、船頭奉公や職人奉公、商人奉公と勤めることになっていました。行事では笹山笠やお神輿の巡行、頭料理などでお祝いをします。武家の元服式に習い、商人の元服式と言われていました。

さて、十二月の晦日には須賀神社では大祓いが行われます。大祓いは、六月の「夏越しの祓い」と、十二月の「年越しの祓い」の二回行われます。半年の間の罪と穢れを祓う行事です。神道では、罪や穢れをためたままにすると悪神や悪霊が寄ってくると考えるからです。そこで、心身を祓い清め常に清らかな気持ちで日々を送れるように、大祓の祭りをするのです。

本年は、新型コロナ禍でほとんどの「お祭り」は、中止になりましたが祭式は勤められました。昨今大雨や台風等、人間の知恵ではどうにもならない災害が頻発しています。産土神社にお参りして心静かな日常を取り戻したいものです。

玉垣に船頭中や恵比須講
宿中の悪霊祓う大晦日

本町　野口靖彦

子供恵比須の笹山笠

お神輿行列の巡行

わたしの昔話

【柴田豊廣遺稿集】より

■ 交際の中に

町や村には長い歴史に伴った、お祭り事のような年中行事が多く伝えられている。私達の生い立ちにも、誕生祝や成人式や結婚式と言った個人の成長を祝う通過儀礼が種々伝えられている。これ等は人々が互いに交際の場を広め、仲良く暮らしたいと願う心の現われである。この他にも、人々が気安く集まれる行事を作り、自らを解放した気持のおつきあいを楽しんでいた。ところが、昔大名同士が仲良くなる事を恐れて、殆んどの有名街道は城下を通していないように、人々が勝手に集まる事は治安維持の上から良くない事だとして、自由に集まる事は禁止された。

但し時過ぎて、厳しすぎたと言う事で次の十項目の交際上の集まりは許された。誕生、成人、結婚、病気、葬式、法事、火事、水害、普請、旅立、以上である。これにより再び人々の交際は盛んになった。

この頃、村八分という言葉が出てきたようであり、これは全然交際する気のない人に対して、前記の十項目の内の八項目は交際しないが、火事と葬式の二項目だけは加勢をするという配慮を示す村八分と聞いている。

戦いに敗れて、総てが再出発となったが何を立て直すにも人々の心の交流が大きな力となって来た。

新しく民主主義が広がる中に、次々と変わった思想が台頭して来て、心の誇りも心のよりどころも、かき乱されたように感じ、何が何だか判らなくなった。けれども正しい真心の人々は、常に明るく静かな交際をつづけて来た。

昔から「話は庚申さまのばんに」と言われているように、庚申祭りに庚申講座があり、恵比須祭りに恵比須講座があり、この座に集まる男心は充分に満たされ時を忘れて酒を酌み交わしていた。

お大師さまにも、お観音さまにもお座があり、この座に集まる女心は、姿にも形にもゆったりとしたくつろぎを見せて終日大声の笑いが通りにまで流れていた。

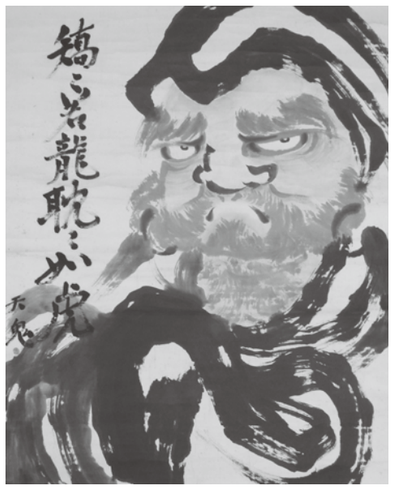
懐かしい思い出である。

古い習わしだと、そっぽ向かないで、自らの工夫で楽しみを作り喜びを生み出す、心の交際を見出しましょうよ。

本町　柴田由美子

木屋瀬宿記念館 収蔵品紹介

「達磨絵」（新谷鐵儼 作）



新谷鐵儼（しんたにてっせん）は大正～昭和初期に活躍した、木屋瀬出身の画家です。親戚の鍛冶屋に勤め、後に独立。生業のかたわらで若松の南画家・木村耕巌に師事し、「月下の虎」という作品で高い評価を受け、41 歳頃に画業に専念することを決意しました。彼は“山水”“花鳥”“虎”などの絵を描くほか達磨を得意としていて、記念館にもこの達磨絵だけで寄贈寄託の品を合わせて９点ほどが収蔵されています。

写真の達磨絵には天鬼が書いた賛がついていますが、永源寺には京都清水寺の大西良慶師の賛のある達磨絵があります。この『賛』とは画賛のことであり、その画を讃えた詩や歌などを絵画の余白に入れる事です。また、自ら賛を入れることを『自画自賛』と呼び、誰もが一度は使ったことのある言葉はここから由来しているのです。

新谷鐵儼の絵の特徴として、その一つにダイナミックな表現であることが挙げられます。筆で力強く描かれる鐵儼の水墨画は、今にも動き出しそうな並々ならぬ迫力を持っており、昭和から現在まで人々を圧倒してきました。また、師である木村耕巌から教わった、時に緻密で繊細な技法を用いる『南画』の表現と、鐵儼自身がこれまで描いてきた『水墨画』が組み合わさり、大胆であるばかりでなく、絵の細部にも力を入れているのが伺えます。

（長崎街道木屋瀬宿記念館　学芸員：加藤　悠）